



プラン2025 / 3年目の取組状況

業務用領域の取組み

プラン「2025」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

容環協では、乳業メーカーと飲料用紙容器メーカーの会員企業から選出された専門委員によって、「総務」「広報」「イベント」「支部組織」の4つの委員会を組織し、それぞれ月に1回以上の頻度で会議を行ってさまざまな活動に取り組んでいます。また、各委員会に所属する専門委員から構成される「企画運営委員会」を月に1回開催し、組織横断的な情報共有と各課題の進捗確認を行っています。プラン2025で掲げている5つの体系にかかわる2023年の主な活動概況は以下の通りです。

(1) 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

紙パックリサイクルにかかわる現状を把握するため、基本調査、地域毎の回収力分析、古紙業者の紙パック取扱い意向調査を行いました。他団体とも連携し、紙パックとして収集された資源物への異物の混入量や雑がみに混在する紙パックの量などの組成調査も行っています。容環協が取り組んでいるさまざまな施策を評価し、改善に向けた方向性の示唆を得るため、関東の1都6県、関西の2府4県の方々を対象としてアンケート調査を実施しました。コロナ感染症の位置づけ変更に伴い、古紙原料問屋や再生紙メーカーとの意見交換会、市民の方々に向けた講習会や地域イベントへの出展なども再開しています。コロナ禍や台風禍で中断していた紙パックリサイクル促進地域会議を千葉県で開催し、関連省庁や県内の自治体を始めとしたステークホルダーの方々にご参加頂き、課題と情報の共有を行いました。9月には北米視察を行い、育苗場、森林管理施設、紙パックの原紙工場、リサイクル施設などの視察を行いました。

(2) 回収率向上のための啓発

日本経済新聞社が主催する日本最大級の環境展エコプロへ出展すると共に、全国の自治体、諸団体、会員企業と連携し、リサイクル講習会や地域イベントの開催や支援を行いました。啓発の軸を「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取組み」といったテーマに置き、この理念をパネル、冊子、各種ノベルティ、ホームページ(HP)などでお伝えしています。情報化社会への対応として、HPを充実させ、新しい情報を都度掲載すると共に、セキュリティ向上も図りました。Webを活用したタイアップ広告についてはこれまでに計7回実施し、PV数は合計で約200万となり、Web広告からHPへの誘導にもつなげています。業務用領域における紙パック回収

についても(一社)日本サステナブル・レストラン協会と連携し、関東、中部、関西地域で取組みを進めています。自治体指定のごみ袋への啓発広告の掲載についても継続しています。

(3) 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

地域毎の回収力分析調査によって各地域や自治体が抱えている課題を捉えると共に、全国製紙原料商工組合連合会にご協力頂き、全国の市区町村別の紙パックの回収区分や紙パックを古紙回収する業者の情報を調査し、「古紙原料問屋調査報告書」としてまとめています。お問い合わせがあった時には近隣の古紙問屋などを紹介しています。役場、公民館、学校、福祉施設、事業所、商業施設や店舗などの身近なところに回収拠点を設けて頂くため、回収ボックスの無償提供も継続しており、2023年には約1,000個を提供しました。ラミネートされているポリエチレンのマテリアルリサイクルやケミカルリサイクルについての情報収集や試作、回収拠点の可視化に向けた取組みも進めています。

(4) 次世代を担う子どもたちの環境マインド向上

紙パックリサイクルの意義、資源循環の大切さ、紙パックや学乳パックの資源としての価値などを子供たちに伝え、理解してもらうため、行政や市民団体とも連携し、出前授業やワークショップを行っています。森林資源の活用、SDGs、地球温暖化などの環境面の視点から課題を投げかけ、紙すきを通じて紙パックが別のものに生まれ変わる体験してもらい、自分たちができることは何だろうか?といったことを考えてもらうよう、心がけています。全児童と教職員が紙パックの回収やリサイクルを行っている千葉県の小学校の取組みなども視察頂いています。今年度も紙パックを使ったものづくりを通して子供たちの気付きや理解に貢献したいとの思いから、省庁、公的機関、教育機関などに後援頂き、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」を開催し、全国から3,500以上の作品が寄せられました。一次審査、最終審査を経て受賞作品を選出し、12月に東京ビッグサイトで開催されたエコプロで展示すると共に、作品を制作した児童とご家族を招き、表彰式を行いました。

(5) 活動への理解促進、活動の公表と評価

以上、紹介しました容環協の1年間の活動トピックスを総括し、年次報告書としてまとめ、さまざまなステークホルダーの方々へ情報発信しています。また、HPでは、年次報告書、基本調査報告書、さまざまな啓発資料などについても電子公開しています。年度末には多くのステークホルダーの方々とも意見を交換する場を設けています。今後とも、客観的、数値的な視点で自らの活動や成果を振り返り、課題や問題点を抽出し、次年度の活動へ反映させるよう努めていきます。

一般社団法人 日本サステナブル・レストラン協会 (SRAジャパン)と連携した 取組みを継続しています。

【SRAジャパンとの連携活動】

容環協は業務用領域での紙パック回収について、2023年度もSRAジャパンと連携した取組みを進めています。

今年で2年目となる「FOOD MADE GOOD紙パック50アクション」キャンペーンを7月31日から8月30日に実施しました。このキャンペーンは、飲食店における紙パックの回収啓発と回収率の向上、回収ルートの設定と定着を目指したものです。今年度の参加エリアは、兵庫県芦屋市、大阪府東大阪市、東京都練馬区に加え、同千代田区、神奈川県厚木市、同茅ヶ崎市、愛知県名古屋市の7つの市区に拡大しました。キャンペーン期間中は、各エリアのSRAジャパン加盟店に紙パック回収ボックスを設置し、近隣の飲食店や地域住民に紙パックリサイクルのリーフレットを配布し、リサイクルの重要性を伝え、回収の実証実験を実施しました。練馬区、厚木市、茅ヶ崎市では地域の環境イベントやマルシェにも出展し、この結果、キャンペーン期間中の紙パックの回収枚数は5,672枚となり、非常に多くの方々に紙パックを持参頂きました。また、SRAジャパンのFacebook、Instagram、X、YouTubeといったSNSでは、キャンペーンの状況を発信し続けて頂きました。行政との連携も進めており、厚木市、茅ヶ崎市、芦屋市では市長や市議と面談し、事業系紙パックの回収についての課題の共有と回収率の改善に向けた理解と協力を求めました。

10月には、SRAジャパンが主催するウェビナーに、厚木市で紙パックの回収を進めている飲食店、神奈川県古紙問屋とともに、伊藤常務理事が登壇し、紙パックリサイクルの現状と今後の展望について講演を行い、講演のようすはYouTubeチャンネルで公開されました。

11月には、加盟レストランのサステナビリティを評価して表彰する式典である「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2023」に協賛し、容環協の冠賞として「BEST

リサイクル賞」を設けました。受賞者としては、紙パック回収についての積極的な取組み、商業施設や自治体や子供会などの地域への強力な働きかけ、自らリサイクラーへ持ち込む行動力、リサイクラーと協力したウェビナー登壇、市議や市長への働きかけを通じた行政へのアプローチ、イベントでの厚木市ブースへの回収ボックス設置などの強力な推進性を評価し、「厚木エリア」を選出しました。アワード授賞式当日はブース出展を行い、飲食店やサステナビリティ関係者へ、紙パック回収啓発のリーフレットを配布しました。「BESTリサイクル賞」をきっかけに他の地域へも成功事例を共有することができ、今後の紙パックの回収率向上に向けた取組みの広がりが期待されます。



練馬区の回収イベント

茅ヶ崎夏祭り回収イベント



厚木市役所での市長や市議との面談



名古屋市の店舗での回収

BESTリサイクル賞表彰式

飲料用紙パックリサイクル行動調査

海外調査



飲料用紙パックのリサイクルに関するインターネット調査を関東と関西で行いました。

【2023年度飲料用紙パックのリサイクル行動調査】

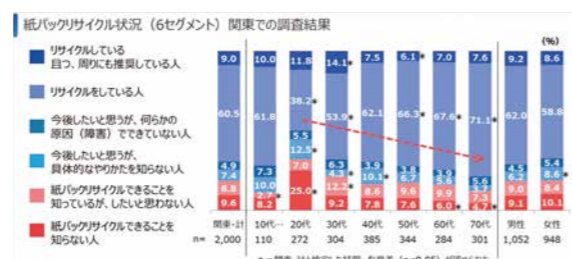
飲料用紙パックリサイクルの消費者セグメント構造(行動パターン)を把握すると共に、容環協が回収率向上に向けて取り組んでいるさまざまな施策を評価し、改善に向けた方向性の示唆を得るために、関東の1都6県(東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬)、関西の2府4県(大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山)の15~79歳の男女計4,000人(関東2,000人、関西2,000人)の方を対象として、インターネット調査を行いました。今回の調査を通じて、関東と関西ならびに各都府県での紙パックリサイクル行動の違い、年代別のリサイクル行動の違い、何がリサイクルを始めるきっかけになったかが、ある程度、明らかになりました。

関東では約7割、関西では約6割の方が「リサイクルをしている」と回答し、関西の方がやや比率が低い傾向がありました。また、年代が高くなるにつれてリサイクルをしている人の比率が高くなる傾向でした。性別によるリサイクル行動に大きな違いはありませんでした。紙パックリサイクルのやり方を知らない人は、関東、関西とも「紙パックを出す前の処理方法」より「居住エリアの具体的な回収先」を知らない人が多い傾向にあり、容環協では、行政やスーパーマーケットなどで回収を行っていること、自治体のHPや小売業のHPにも回収先が掲載されていること、などの情報を継続して提供していきたいと考えています。また、紙パックリサイクルをしていることを知らない人に、紙パックリサイクルの方法や意義などの資料を提示したところ、多くの方から「出そう」「出してもいい」との回答を頂きました。その理由は、関東、関西とも「環境のためになることがわかった」がトップとなり、関西では「燃やせるゴミが減らせる」との回答も目立ちました。容環協では、出前授業、リサイクル講習会、地域の環境イベントなどを通じて「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取り組み」であることをお伝えすると共に、地域による違いを考慮し、それぞれの地域の特性を

考えた啓発活動を心がけたいと思います。紙パックリサイクルを始めたきっかけについては、以前からしていた方と、直近1年以内に始めた方との間には大きな相違が認められました。関東、関西ともに、以前からしていた方については「スーパーやお店で回収していた」「自治体でやっていた」との回答が大半ですが、直近1年以内に始めた方については「インターネット」「SNS」「動画サイト」などの比率もかなり高くなりました。容環協では、出前授業やリサイクル講習会などの対面での啓発活動に加えて、Web記事の掲載や動画の配信などの電子媒体を通じた非対面での啓発活動にも積極的に取り組み、HPについても更に充実させようと考えています。

今後もこのような調査を定期的の実施し、客観的、数値的な視点で課題や問題点を抽出し、今後の活動に反映していきます。今回の調査の詳細をHPの「インターネットによるアンケート調査」に掲載しています。ぜひ、ご確認下さい。

調査機関:株式会社クロス・マーケティング



北米を訪問し、日本との違いや現地の取組みを確認でき、大変有意義な機会になりました。

【北米視察】9月11日~15日

第7回目となる今回の海外調査では、シアトルからサンフランシスコまでのアメリカの北西部を訪問し、紙パックの原料となる針葉樹の採種や育苗工程の確認、森林の管理状況の学習、原紙製造工場や資源回収施設の視察などを行いました。

採種や育苗工程の確認については、ウェアハウザー社が運営するロチェスター採種園を訪問しました。ここでは、交配による針葉樹の品種改良に取り組み、約10年という長い年月をかけて種作りを行っています。現在は第3世代の品種を栽培・販売しており、優性遺伝(成長が早い・真っすぐ成長する・環境適応能力が高いなど)を活用した効率的な品種改良と植林活動が行われていました。近年は森林火災も多く発生していることから、環境に強く、成長が早い樹木を計画的に植林することによって安定した森林資源の供給に取り組む生の現場を見ることができました。この取組みはセントヘレンズ森林学習センターでも確認することができました。



育苗施設の様子(第3世代) セントヘレンズ森林学習センター

原紙製造工場については、日本ダイナウェーブパッカーズ社(以下、NDP社)を訪問しました。NDP社では、使用するチップの約30%をウェアハウザー社から供給を受けており、パルパ化から抄紙工程、エクストルーダーによるラミネート工程までを行っています。原紙は3層抄きで、プレス工程及び乾燥工程を経て、適切な水分値になるよう抄造されていました。抄造後は1本が25トンと非常に大きなロールを小分けし、紙の内外面にポリエチレンや

バリア層をラミネートして、液体食品用紙容器の原紙が完成します。また、ライフサイクルアセスメント(LCA)の点からも年々改善がなされており、設備増強によって使用する蒸気や電力量は増加しているものの、効率の良い設備の導入によって、エネルギー効率の向上や再利用、化石燃料の使用低減に取り組んでいるとのことでした。



NDP社でのミーティングの様子

資源回収施設については、カートンカウンシル(アメリカの紙パックリサイクル推進団体)の支援を受けているカリフォルニア州サンノゼ市にあるGreen Wasteを訪問しました。この施設はサンフランシスコ湾一帯の大型施設で回収されたリサイクル可能なごみを取り扱っており、約20%が紙類(そのうちメインは段ボール)とのことです。日本では回収前に分別を行います。米国では一括回収して分別する方式であり、この施設では分別機や作業員による手選別により、約15種類(段ボール、印刷古紙、紙パック、ポリエチレン、ポリプロピレン、PET、プラスチックフィルム、アルミ、スチール、ガラスなど)にも細かく分別していることにも大変驚きました。処理能力が高いことから(回収後48時間以内に分別完了)、施設内の異臭や害虫はそれほど酷くない印象でしたが、作業には大変手間がかかっており、事前に分別する日本方式のメリットを大いに感じました。



資源回収施設 (Green Waste)

リサイクル促進地域会議

リサイクル促進意見交換会



各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催しました。

紙パックリサイクル促進地域会議 in 千葉

- ◆開催日 2023年2月10日
- ◆開催地 千葉市
- ◆参加者 農林水産省、経済産業省、環境省、自治体、乳業メーカー、容器メーカー、回収業者など計40名

【主な報告や問題提起】

- 来賓を代表して農林水産省より、容器包装リサイクル法施行以来、飲料用紙パックが再商品化義務になっていないのは、多くの関係者の方々が取組みを継続的に続けられた成果であり、一方で、コロナ禍の影響で回収率の向上が難しい状況下、本日の地域会議がリサイクルの促進につながることを祈念したいとのお話がありました。
- 容環協より、容環協の概要、回収率の推移と課題、主な活動内容として、ステークホルダーとの意見交換、日本サステナブル・レストラン協会との連携、出前授業、ごみ袋への広告掲載、エコプロ、牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール、HPの全面改訂、パネルの作り直し、小学生向けノートの作成を紹介しました。
- 事例紹介では、千葉市より、焼却ごみの削減、古紙の分別方法、古紙の回収実績、紙パックの回収実績について説明があり、可燃ごみには資源化できる紙類が10%程度含まれており、また、紙パックの回収量は横ばいもしくは微減とのお話でした。回収業務を受託している千葉市再資源化



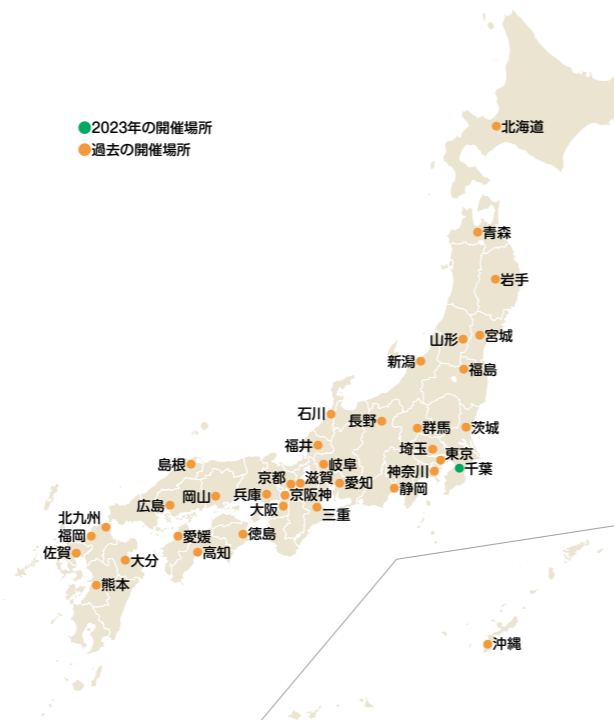
会議の様子

事業協同組合からは、古紙品質の低下(雑がみへの混入)が問題となっており、その中に紙パックも1%含まれ、紙パックは単体で回収しなければならないことの市民への啓発活動が重要であるとのお話でした。

- 情報交換会では、容環協より、回収率は前年度からほぼ横ばいに推移したなど、2021年度紙パックリサイクルの実態について説明を行いました。また、学乳パックのリサイクルに積極的に取り組んでいる流山市の事例を紹介しました。各自治体ともに雑がみへの紙パックの混入の課題を抱えており、一方、雑がみに入ってもリサイクルされる場合もあるといったご意見もありました。容環協としては、紙パック単体で出せる方法を皆様のお知恵を借りて推進したいと思っています。

可燃ごみへの紙類の混入、雑がみへの紙パック混入などの事例紹介や議論を通じて、容環協としても、分別のルールを正しく伝えることが非常に重要な啓発ポイントであることを改めて認識しました。また、出席頂いた方々には、紙パックリサイクルの啓発に向けた取組みにあたっては容環協を積極的に活用して頂きたいことをお願いしました。最後に、紙パックのリサイクルを促進するためには関係者間での協力と情報共有が重要であることを確認し、閉会となりました。

地域会議の開催場所



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第35回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2023年2月28日に乳業会館にて、農林水産省食品ロス・リサイクル対策室、同牛乳乳製品課、経済産業省素材産業課、同資源循環経済課、環境省リサイクル推進室、自治体関係者、流通事業者、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカー、乳業メーカー、飲料用紙容器メーカーなど計約60名参加のもと、開催しました。

最初に容環協の伊藤常務理事から、「残念ながら近年、紙パック回収率は頭打ち状態の中、今年度もオンラインでの実施となりましたが、一人でも多くの方から忌憚のない意見を頂き、紙パックリサイクル活動をさらに前進させる有意義な会にしたい」との挨拶がありました。農水省から、「資源やエネルギーの供給が世界的に不安定な現状において、紙パックリサイクルは資源循環の促進のための身近な題材であり、行動変容のきっかけとして重要な役割を果たすものと期待したい」との挨拶がありました。

次に取組状況報告として容環協から、組織構成と活動テーマ概要を説明しました。回収率目標50%とともにSDGsを達成するための5つの体系からなる新規行動計画「プラン2025」を制定し、取り組んでいることを報告しました。続いて4つの専門委員会の活動状況を各委員長から報告しました。



容環協からのリモート発信の様子

調査会社からは、2021年度の回収率調査結果の詳細内容として、飲料用紙パックの回収率は前年度と同じく38.8%、使用済紙パックの回収率は29.5%であったが、他の古紙として回収され紙パックとして分別されたものを分子に加え、まな板などに再活用されたものを分母から引くと、それぞれ42.0%、32.7%と試算されること、集団回収と店頭回収が減少したこと、学校でのリサイクルはかなり減少したことなどの説明がありました。

後半の意見交換では、自治体より雑がみや雑誌、段ボールと区別して紙パック単体で出すことの啓発が課題になっていること、小売業者からは前述の調査結果にもあったように店頭回収が下がってきているとの報告がありました。学乳パックについては東京学乳協議会からの実態把握はできていないとの報告に対して学校関係者とのコミュニケーション不足との指摘がありました。一方、川崎市では市民団体と川崎市環境局が容環協と連携して学校での啓発活動を行っている事例が紹介され、授業を行った学校の半分が学乳パックリサイクルを継続しており、アフターフォローも大切との報告がありました。SDGsと連動した学校におけるリサイクル啓発はとても重要であることを再認識するとともに、受け皿としての製紙メーカーは学乳パック回収ルートの開拓や自治体、小売業と協力してリサイクル活動を進めていることなどの報告がありました。また、容環協の回収拠点マップ作成の進捗状況についての質問があり、掲載許可の問題などで難航しているが、行政データを中心に情報収集を進め、段階的に2025年完成を目指す旨と回答しました。

地球環境問題・資源循環への対応が求められる中で紙パック回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要と再認識しました。



伊藤常務理事の挨拶

紙パックリサイクル講習会／イベント・出展



狛江市のエコパートナー養成講座にてセミナーを開催しました。

【狛江市エコパートナー養成講座セミナー】2023年8月19日

狛江市は、「2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティを目指す」とことを表明すると共に、狛江市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画を策定し、産官学民が連携してさまざまな取組みを行っています。今回、市民の方々に向けたエコパートナー養成講座として、「紙パックリサイクルでできるSDGsの課題解決への貢献」とのタイトルで、セミナーを開催しました。

最初に、容環協の概要や組織、容器包装リサイクル法が制定された背景、現在の廃棄物の実態、消費者・自治体・事業者が担うべき役割などを、イラストを交えたスライドで紹介した後、昨年度の調査結果に基づいた紙パックリサイクルの状況を説明しました。次に、SDGsの視点で制作したパネルに沿って、森林管理の重要性、紙パックの特徴、回収と分別のルール、再生紙工場の工程と設備、紙パックのリサイクルでできるSDGsの課題解決への貢献などを紹介しました。セミナーの後半では、再生紙工場の設備や工程を紹介した動画と、全児童が学乳パックの回収とリサイクルに取り組んでいる千葉県流山市立おおたかの森小学校の動画を上映し、紙パックリサイクルや資源循環についての具体的なイメージを持って頂きました。

セミナーの後には「日本の木材は使っていないのですか?」「狛江市での紙パック回収はどうなっているのですか?」「口栓付きの紙パックはどうしたら良いですか?」「紙パック製品の製造や販売量が減っていることが回収率低下の原因になっている可能性はありませんか?」など、非常に多くの質問が上がり、参加頂いた方々の意識の高さを感じることができたセミナーとなりました。



会場でのセミナーの様子

大阪府柏原市と連携し、3つのイベントに出展しました。

【CHEER FAMILY☆フェスタ☆】2023年3月19日

CHEER FAMILY☆フェスタ☆は、一般社団法人チアファミリーが主催し、柏原市、柏原市教育委員会、藤井寺市、藤井寺市教育委員会が後援するファミリーイベントです。エリアの一角にテントを設置し、パネルの掲示、リサイクルした紙パックから製造された紙紐やトイレトペーパーの展示、来場者のリサイクル状況や意識のアンケート調査、各種啓発冊子の配布などを行いました。

【アス・アースフェス】2023年4月22日

アス・アースフェスは、アス・アースフェス運営委員会が主催し、柏原市と柏原市教育委員会が後援して行われた「明日の地球を親子で体験!」をキャッチフレーズとしたイベントです。資源循環ステーションの隣にブースを設け、会場での飲食後のごみをステーションに出しに来た方々に対して、パネルやチップ・パルプ・ポリエチレン・三層構造紙パック・手開きした紙パックなどの展示、リサイクルされた紙パックから製造されたトイレトペーパーの配布などを行いました。

【柏原市環境フェア】2023年11月4日

市役所の駐車場と大和川河川敷緑地公園で柏原市民総合フェスティバルが開催され、この一角で29回目となる環境フェアが同時開催されました。同市内に活動拠点を置く「かしわ環境会議」が設置したブースの一角で、パネルやリサイクルされた紙パックから製造された再生品の掲示、啓発冊子やノベルティの配布などを行いました。配布したポケットティッシュの数は300を超え、大盛況なイベントでした。

上記3つのイベントへの出展を通じて、分別回収の大切さをあらためて感じて頂くと同時に、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできる環境への貢献であることを、来場した子供たちやご家族の方々に理解頂くすばらしい機会となりました。



容環協展示ブースでの様子 (CHEER FAMILY☆フェスタ☆)



柏原市役所の資源物回収エリア

リサイクルの大切さを啓発。紙パックの手開きや紙すきを体験してもらいました。

【ちよだ環境まつり】2023年6月17日

ちよだ環境まつりは、地球温暖化やごみの減量など、環境の大切さをより多くの方に知って頂くために、千代田区が毎年6月の「環境月間」に合わせて開催している、子供から大人まで楽しめる参加体験型のイベントです。会場の一角にブースを出展し、パネルの掲示、リサイクルされた紙パックからつくられたトイレトペーパーやボックスティッシュの展示などを行いました。親子で楽しみながら紙パックリサイクルについて学べるブースとするため、紙パック再生紙でつくられたぬり絵付きうちわの体験コーナーを設け、お子様連れのご家族に大変好評でした。

本イベントを通じて、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできる環境への貢献であり、限られた資源を大切に使う地球にやさしい生活への意識向上にもつながることを、多くの方々にご理解頂きました。



容環協の出展ブース

ぬり絵に熱心な子供たち

【中央区こどもエコサマーウィーク】2023年8月5日

中央区立環境情報センターは、環境に関する講座や講演会、体験型ワークショップなど、さまざまな環境に関するイベントや情報を開催・発信しています。「こどもエコサマーウィーク」と題した夏のイベント開催中にワークショップを企画し、パックン探検隊の動画を視聴後、手すきはがきづくりやマシンガンズの動画視聴、牛乳パックの手開き体験をしてもらいました。手すきはがきづくりでは、紙パック由来のパルプを水に懸濁させた液体から次第に水分が抜けて紙になっていく過程を体験して頂き、「初めてで嬉しかった」「すごく楽しかった」「もう一回したい」などの感想が寄せられました。



手すきはがきづくり

紙パックの手開き体験

【むさしのエコreゾートワークショップ】2023年7月28日

「むさしのエコreゾート」は東京都武蔵野市のごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」の敷地内にあり、旧建物の一部をリノベーションして整備された市民が学べる環境啓発施設です。7～8月の約1か月間、「環境について楽しく学ぼう!」というテーマで、さまざまな団体や企業が環境に関連するワークショップや展示会を開催しており、容環協も牛乳パックン探検隊やマシンガンズの動画視聴、手すきはがきづくりを体験できるワークショップを行いました。また、参加者に牛乳を配布し、飲んで頂いた後、手開き体験をしてもらいました。はさみを使わずに手で開くコツを学んでいただくと同時に、紙パックを開いた人しか見ることができない「リサイクルありがとう」のメッセージの話も、関心を持って聞いて頂きました。



むさしのエコreゾートの外観

紙パックの手開き体験

※むさしのエコreゾートでは11月19日に「第16回むさしの環境フェスタ」が開催され、容環協からパネルや各種啓発冊子、ぬり絵うちわ、ノベルティなどの貸与と提供を行いました。

【野田市リサイクルフェア2023】2023年10月14日

コロナ禍でしばらく中止されていた野田市リサイクルフェアが今年から再開されました。市役所ロビーでは生ごみ堆肥化装置の展示、食品ロス原因・対策のパネル展示などが行われており、容環協はロビーの一面にブースを設置し、手すきはがきづくり、動画の視聴、紙パック手開き体験、啓発パネルの展示などのプログラムで講習会を行い、紙パック由来の再生紙で作成したうちわへのぬり絵コーナーも用意しました。

参加した児童からは「紙すき楽しかった」という嬉しい声も頂き、今回のイベントが楽しかった思い出になり、自宅に帰ってからも紙パックのリサイクルをして頂ければ良いなと思いました。



動画の視聴

手すきはがきづくり

牛乳パックリサイクル出前授業

その他の広告・啓発活動



市民団体や自治体と連携し、学乳パックのリサイクルに向けて出前授業に取り組んでいます。

【神奈川県 横浜市立瀬谷第二小学校】2022年12月19日

持参した屋根型の紙パックと口栓付き紙パックの手開きを実演し、児童たちは「フラップを起こしてから押し込んで開く」口栓付き紙パックの手開きや、再生紙メーカーの工場で作られているジャンボロールの大きさに興味津々でした。授業の後には次々と手が挙がり、ティシュペーパーは紙パック何枚分？1日にどのくらいトイレットペーパーをついているの？どのくらいのスピードで紙パックができて上がるの？などの答えられない質問ばかりでタジタジでした。

(小学校4年生1クラス36名受講)



容環協による講義の様子

【神奈川県 横浜市立矢向小学校】2023年1月19日

持参した屋根型、レンガ型、注ぎ口付き紙パックの手開きを行い、道具を使わずに簡単に手でひらけることを実践しました。2022年度の「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」の入賞作品の動画を放映すると、児童からは「凄い!」「小学1年生や3年生がつくったの?!」「僕たちはできっこない!」(そんなことはないと思う!)などの感嘆の声が上がりました。

(個別支援学級)



前のめりして説明を聞く児童

出前授業講義内容

- ・講義 「3Rについて」「牛乳パックのリサイクル方法とメリット」
- ・視聴 DVD「牛乳パック探検隊」
- ・質疑応答、他校の事例紹介(ビデオ)

協働実施団体(川崎市)

- ・3R推進プロジェクト(川崎市の市民団体)
- ・グリーンコンシューマグループかわさき(川崎市の市民団体)
- ・川崎市環境局(減量推進課、地球環境推進室)

【神奈川県 川崎市立向丘小学校】2023年9月4日

授業後の感想では「学乳パック1個は小さいけれども皆でやれば沢山のCO₂を減らすことができるので、まずは自分からできることから取り組んでいきたいと思いました」といった頼もしい意見も出ました。担当の先生からは「川崎市最古の小学校として学乳パックリサイクルに取り組まない訳にはいきません。子供たちとも話し合い、どのように進めていくのか検討したいと思います。今後とも宜しくお願いします」といった力強い言葉を頂きました。

(小学校5年生3クラス121名受講)



説明を真剣に聞く児童たち

【神奈川県 川崎市立東門前小学校】2023年9月25日

今回の授業を通じて、市民の意識が高く、紙パックの回収・リサイクルの仕組みができて川崎市なのはどうして飲み終わった学乳パックが焼却処分されているんだろう?という疑問や、このまま焼却ごみが増えると処分場がいっぱいになり皆が困るので自分たちもリサイクルに協力してごみを減らしたいという気持ちが芽生えてきたようです。

(小学校5年生4クラス134名受講)

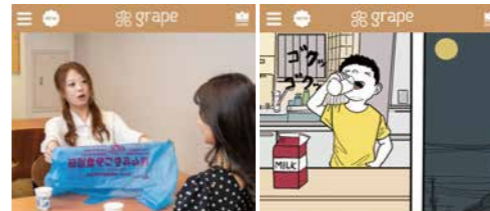
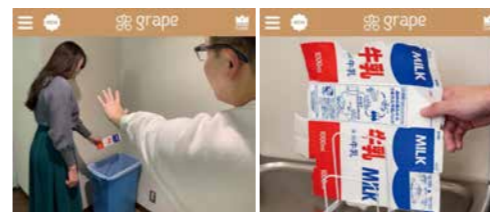


容環協による講義の様子

【WebやSNSを活用したタイアップ広告】

紙パックの特徴、リサイクルの意義、正しい分別方法、再生紙工場の工程や設備、身近な再生品などを広く多くの方々にお伝えし、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできるSDGsへの取り組みであることをご理解頂くため、2022年からWebやSNSを活用したタイアップ広告を継続しています。スマホやPCを日常的に使用している方々は多く、これまでに計7回のWeb広告のページビュー(PV)数は累計で約200万PVとなっており、Web広告とリンクさせた容環協HPの閲覧数も伸びています。ご覧頂いた方々によるSNSへの投稿、SNS上での活発な意見交換や議論なども行われており、Web広告は多くの方々にとって紙パックリサイクルについて改めて考えて頂くきっかけにもなっていると共に、容環協としても、さまざまな視点からの意見を伺うことのできる気付きとなっています。10月から掲載している第7弾では、若い方々に気軽に読んで頂けるよう、家庭での日常的な会話から始まるマンガ記事を掲載しました。

今後とも、リサイクル講習会、出前授業、イベント出展などの直接的な啓発活動に加えて、広く多くの方々に情報をお伝えすることのできるWebやSNSを始めとした媒体やHPを通じた啓発活動に取り組んでいきます。



【自治体指定のごみ袋への広告掲載】

2019年から、各自治体が指定している「可燃ごみ袋」へ「紙パックは捨てずにリサイクル」のメッセージを掲載し、広く市民の方々に啓発する取り組みを進めています。2023年度には、前年度に掲載頂いた東京都八王子市、三鷹市、羽村市の3市に加えて、新たに神奈川県逗子市、大阪府泉佐野市を加えた5市へ広告の掲載を申請し、全て承認されました。5市を合わせた人口は約100万人にもなり、ごみ袋の購入時や使用時に容環協のメッセージを確認頂けるものと思います。HPの「暮らし」や「ごみの出し方」のページに、一定期間、容環協HPへリンクするバナーを設定頂ける自治体もあり、新しいごみ袋が作成され、流通される次第、掲載をお願いする予定です。

ごみ袋への広告掲載は、行政にとってはごみが削減されて焼却施設への負荷が減る、市民の皆さまにとってはかさばる紙パックを有料のごみ袋に入れなくて良い、容環協にとっては紙パックリサイクルの促進につながるといった、まさに「三方よし」の取り組みです。今後とも容環協では市民の皆さまに向けて、紙パックリサイクルの意義を伝えていきます。

●各自治体指定の可燃ごみ袋へ掲載頂く啓発メッセージ



八王子市



三鷹市



羽村市、逗子市



泉佐野市



連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2023】12月6日～8日

東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境イベントに本年度も出展しました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、ブースについては博物館や美術館のように展示物を閲覧する形式から、スタンプラリーを取り入れた参加型に変更しました。初めての試みとなるスタンプラリー。小学生や中学生にも正しい紙パックのリサイクルについて楽しく学んでもらえるよう、いろいろな工夫をしました。ブースにはSDGsの視点で制作した6枚パネルにヒントがあるクイズがあり、入口で〇×欄がある台紙をもらい、牛乳パックの絵柄のスタンプを正しいと思うように押していきます。各コーナーでは容環協の専門委員がパネルの説明を行い、クイズに回答した後、次のコーナーに進み、スタンプラリーを完成させます。参加頂いた方には紙パック由来の再生パルプからつくった手すきはがきやメモカードをプレゼントしました。スタンプラリーは大変好評で、準備していた1,000個のノベルティは2日目で完配となり、以降は紙パックで地球にやさしくNOTEBOOKをプレゼントしました。各コーナーでは、「リサイクルするとどんないいことがあるの?」「なぜ紙パックは

分別してだすの?」「紙パックのふるさは?」「回収した紙パックから何ができるの?」「回収率はどれくらい?」といったさまざまな疑問や意見が寄せられ、専門委員が丁寧に説明しました。

3日間のエコプロ2023開催期間中の累計来場者数は約67,000名であり、そのうち約2,500名の方(累計来場者数の3.7%に当たります)が容環協ブースに足を運んで下さいました。ブースでは、会員の乳業メーカーから提供頂いたデザインや地域色が豊かな紙パック、リサイクルされた紙パックからつくられた再生品、「紙パックマーク」と「紙マーク」の付いたさまざまな製品などをスーパーマーケットの店頭をイメージして展示すると共に、例年どおり、牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクールの入賞作品を展示しました。また、大型モニターでは、牛乳パックン探検隊、マシンガンズの動画、流山市立おおたかの森小学校の牛乳パック回収の取組み、再生紙工場の工程、コンクールの入賞作品の紹介、容環協の活動紹介の6本の動画に加えて、(一社)日本乳業協会より提供頂いた「教えて!!牛乳先生」の4本の動画も併せて上映しました。

ご来場頂いた方々には、紙パックをリサイクルしたポケットティッシュ、「地球にやさしく紙パックのリサイクル」や「知ってほしい紙パックとリサイクル」の冊子を配布しました。今回の展示を通じて、「紙パックのリサイクルは誰でも身近で手軽にできるSDGsへの取組みであること」を多くの方々にご理解頂いたものと思います。

田中琉凰さんの作品
『GO! GO! ミルクカー』が
見事最優秀賞に。

23回目となる「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が開催され、全国の小学校より3,560作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞7作品が選ばれました。入賞された皆様、おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞
『GO! GO! ミルクカー』
田中 琉凰さん(岐阜県岐阜市立市橋小学校6年)
- ◆優秀賞 『かつしかほくさい』
川崎 実莉さん(大阪府堺市立竹城台東小学校2年)
- ◆優秀賞 『ミルクハウス絵本』
真崎 妃菜里さん(北海道千歳市立末広小学校3年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『おべんとうスタジアム』
柏保 要さん(埼玉県鴻巣市立松原小学校4年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『きんぎょのらんちゅうです』
牧口 和寿彦さん(埼玉県北本市立西小学校1年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『テッセラの牛-モザイクの彩り-』
飯田 都和さん(京都府京都市立藤ノ森小学校3年)
- ◆日本乳業協会賞
『かぶと&かつちゅう』
田中 翠晴さん(岐阜県岐阜市立市橋小学校3年)

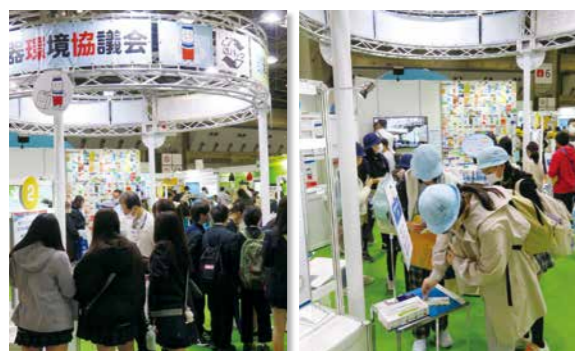
最優秀賞には、岐阜県の6年生田中琉凰さんの作品『GO! GO! ミルクカー』が選ばれました。剛性を出すために、牛乳パックを何枚も重ねてブロック状にして土台となるボディを作ったり、同じ大きさに切り抜いた円を重ねてタイヤにしたりと、牛乳パックという素材からは想像できないほどの質実剛健な作り方はもちろんのこと、保育士をしているお母さんの職場の牛乳パックを活用し、子供も乗って遊べる頑丈なスクーターにして、お母さんの職場にプレゼントしたというエピソードも審査員全員から高く評価されました。

本年度も「エコプロ2023」の容環協ブースで受賞作品を展示しました。来場された方々からは「紙パックからこんな素晴らしい作品ができるなんて!」という感嘆の声が上がっていました。また、表彰式も東京駅前の会場にて開催され、審査委員長の東京国立博物館・藤原館長、実行委員長の容環協・柳田会長をはじめ、審査委員の方々から受賞者に賞状・トロフィー・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学生向けHP「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞『GO! GO! ミルクカー』



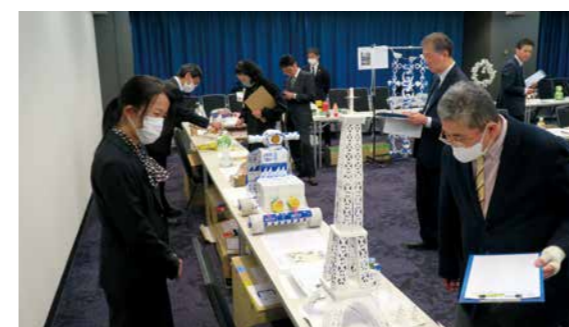
来場者で賑わう容環協のブース

好評だったスタンプラリー



乳業メーカーから提供頂いた
さまざまな紙パックの展示

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』
コンクールの入賞作品の展示



審査のようす



表彰式のようす